

創立記念日を覚えて

嶺 重 淑

今年も私たちの学院の創立記念日（9月28日）の時期が巡ってきました。今年、関西学院は創立121周年を迎えます。人間なら121歳の誕生日ということになるわけですが、人の誕生日をお祝いするのは当然だとしても、このように毎年毎年、学院の創立記念日を覚える意味は、一体どういうところにあるのでしょうか。

関西学院が創立された1889年は、明治憲法ともいわれる大日本帝国憲法が制定された年に当たります。このことから容易に想像できるように、学院の創立時から今日に至るこの121年の間に、日本の社会は大きく様変わりし、食べる物や着る物から、社会環境や教育環境、価値観、思想に至るまで、ありとあらゆる点で変遷を遂げてきたことは言うまでもありません。その意味では、様々な時代を生き抜いて私たちの学院は今日まで存続してきたのであり、まさにここにこそ、学院の創立を記念し、共に祝う意味があるように思います。

もっとも、一組織としての学院が、ただ単に長い期間、続いてきたからお祝いすべきだと言うものではありません。いわゆるミッションスクールと言われる学校の中には、関西学院より長い歴史をもっている学校はいくつもあり、単に長さだけを評価の対象とするなら、私たちの学院は少し見劣りするかもしれません。しかし重要なのはむしろ、時代が移り変わり、学校はじめ多くの組織が変質していく中であって、関西学院が創立時以来の建学の精神を脈々と受け継ぎつつ、今日まで歩んできた点であるように思います。さらに言えば、キリスト教主義に立つ建学の精神を継承し、それを堅持しつつ、そうかといって時代の動きを無視して頑固に過去の伝統に固執するのでもなく、その時々時代の変化に対応し、進化を遂げてきた点に私たちの学院の真価があるのではないのでしょうか。

今日、キリスト教主義学校を取り巻く状況には大変厳しいものがあり、キリスト教主義教育のあり方が改めて問い直されています。関西学院がこれからも、建学の精神をしっかりと継承しつつ、時代の変化の中でさらに「進化」し続けていくことを願わずにはおれません。

(人間福祉学部宗教主事)